

二〇一七年二月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

いちばん身近な人のおかげがみえないようでは

しあわせにはめぐりあえない

とういよしお
東井義雄

今月の言葉は、東井義雄さんの言葉です。東井さんは若いとき、自分の力で生きていくつもりでしたが、身近な人たちのおかげで生かされていることに気づかれたそうです。小学校の教師をされていた東井さんが、校長にまでなれたのは、同じ小学校の先生方のおかげ（お育て）があったからだと言われています。

あらためてまわりを考えてみると、親や先生、友人たちがいて、そうした身近な人たちに支えられ、多くのおかげがあったから、いまの私があるのではないでしょうか。そのことに気づかされたとき、人はしあわせというのは身近にあるのだと実感できるのだと思います。もうすぐ今年度を終えますが、この一年を振り返りながら、身近な人たちに対する感謝を忘れないようにしたいものです。

今月の聖語

つくべき縁あればともない はなるべき縁あればはなる

たんにしよ
『歎異抄』

三月は別れの季節といえます。高三の先輩がいよいよ卒業式を迎え、後輩のみなさんにとっては先輩との別れは悲しく寂しいものでしょう。私たちはさまざまな縁によって、いま親子や友人、先輩・後輩といった関係で出会っています。しかし、「出会いあれば別れあり」と言う様に、出会うということは、必ず最後に別れがやってくるのです。

親鸞聖人は『歎異抄』という書物のなかで、人と人が出会い別れていくことを、「つくべき縁あればともない、はなるべき縁あればはなる」と示されています。別れたくない、離れたくないと思っても、縁が尽きてしまえば、好きな人や大切な人と別れていかなければなりません。別れはともつらいことですが、縁あるときしか一緒にいることができないうのです。この別れの季節を通して、あらためてそのことを考えてみましょう。